

6. アンケート調査結果

1) 協議会開始時アンケート結果

(1) アンケートの回収率と調査対象内訳

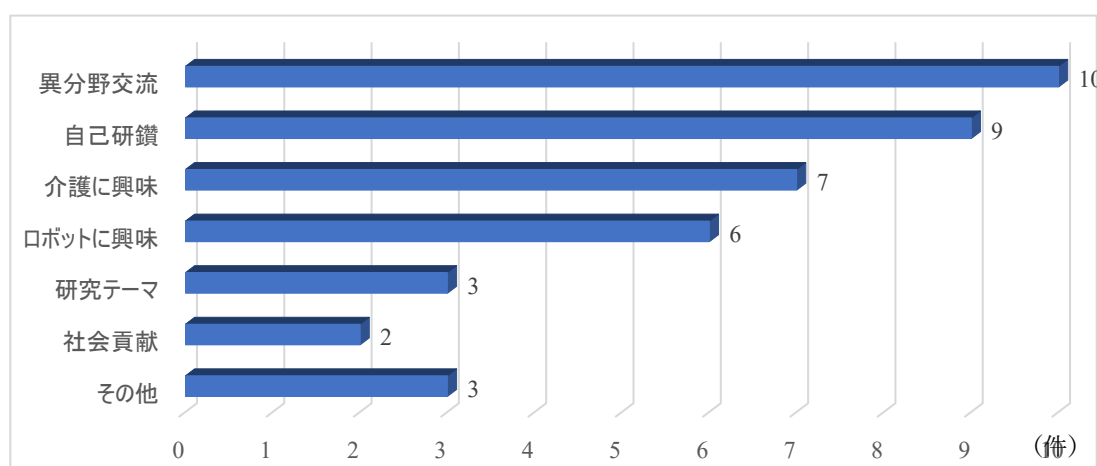
学生協議会開始時に参加した学生36名全員に実施したアンケート調査では、100%の回答率が得られた。なお、回答者の専門別内訳は表v-6-1に示す。

表v-6-1 アンケート調査対象内訳（N=36）

| 専門分野 | 人数 | 男性 | 女性 |
|-------|----|----|----|
| 工学 | 11 | 10 | 1 |
| 医療・福祉 | 15 | 10 | 5 |
| デザイン | 8 | 1 | 7 |
| 社会科学 | 1 | 1 | 0 |
| 人文科学 | 1 | 1 | 0 |
| 合 計 | 36 | 23 | 13 |

(2) この事業に参加した動機について（記述式自由回答）

この事業に参加した動機については、異分野交流に関する記述が10件、自己研鑽に関する記述が9件と感心が高いことがうかがえる（図v-6-1）。また、介護に興味があるに関する記述が7件、ロボットに興味があるに関する記述が6件であり、これらにも関心があることがうかがえた。



図v-6-1 この事業に参加した動機（N=43）

（３）介護に対する現在のイメージについて（記述式自由回答）

介護に対する現在のイメージについての設問では、人材不足に関する記述が１８件と最も多く、次いで介護負担が大きいに関する記述が１３件とほとんどを占めていた（図 v-6-2）。

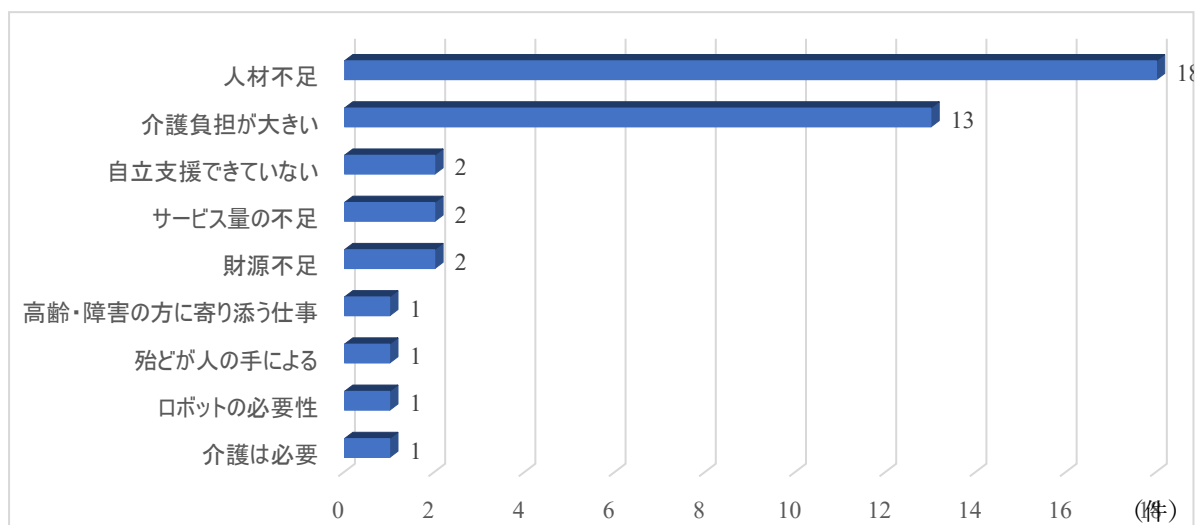


図 v-6-2 介護に対する現在のイメージ（N=41）

（４）チームに対してどのような役割が果たせそうか（記述式自由回答）

チームに対してどのような役割が果たせそうかの設問では、工学・医療・福祉・デザイン・社会科学・人文科学系などの各専門領域の視点で意見・アイデアなどの貢献に関する記述が多くみられた。一方で、チームワークにおける貢献に関する記述が５件、積極的な参加姿勢をみせるに関する記述が５件あり、チームや参加姿勢に対する意識が一定程度認められた（図 v-6-3）。

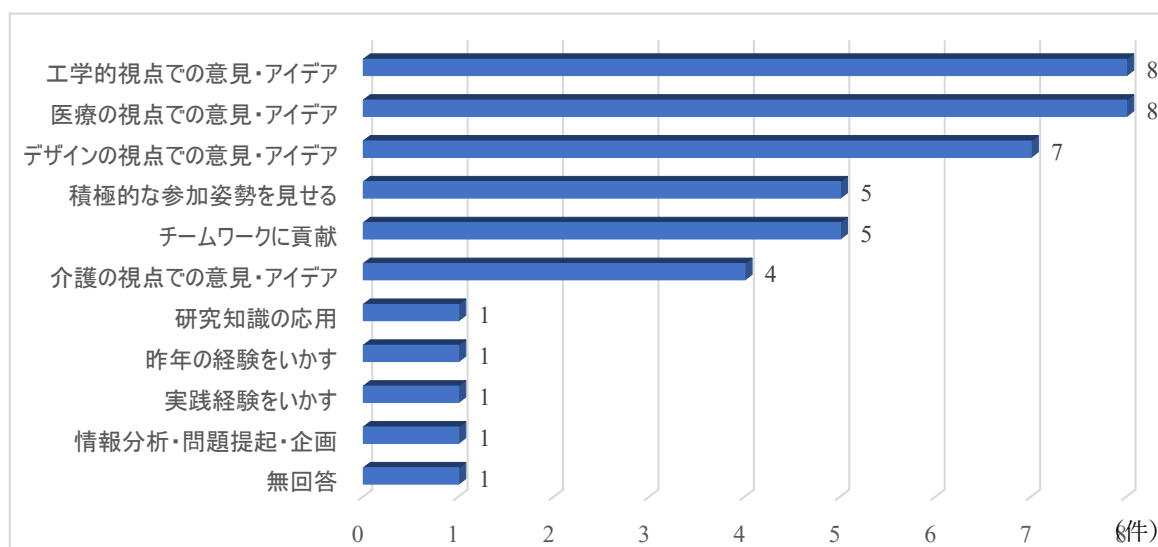


図 v-6-3 チームに対してどのような役割が果たせそうか（N=42）

2) 協議会終了時アンケート結果

(1) アンケートの回収率と調査対象内訳

学生協議会開始時に参加した学生36名中35名に実施したアンケート調査では、97.1%の回答率が得られた。なお、回答者の専門別内訳は表v-6-2に示す。

表 v-6-2 アンケート調査対象内訳 (N=35)

| 専門分野 | 人数 | 男性 | 女性 |
|-------|----|----|----|
| 工学 | 11 | 10 | 1 |
| 医療・福祉 | 12 | 9 | 3 |
| デザイン | 10 | 4 | 6 |
| 社会科学 | 1 | 1 | 0 |
| 人文科学 | 1 | 1 | 0 |
| 合 計 | 35 | 25 | 10 |

(2) 事業に参加してよかったこと

事業に参加してよかったことの問いについては、他分野の学生と活動したことをあげる学生が29件と最も多く、異分野交流による取り組みに関するポジティブな評価が高かった。また、現場の視察をよかった点としてあげる学生も一定数みられており、課題分析を行ううえで現場をみることは必要なことであると考えられた(図v-6-4)。

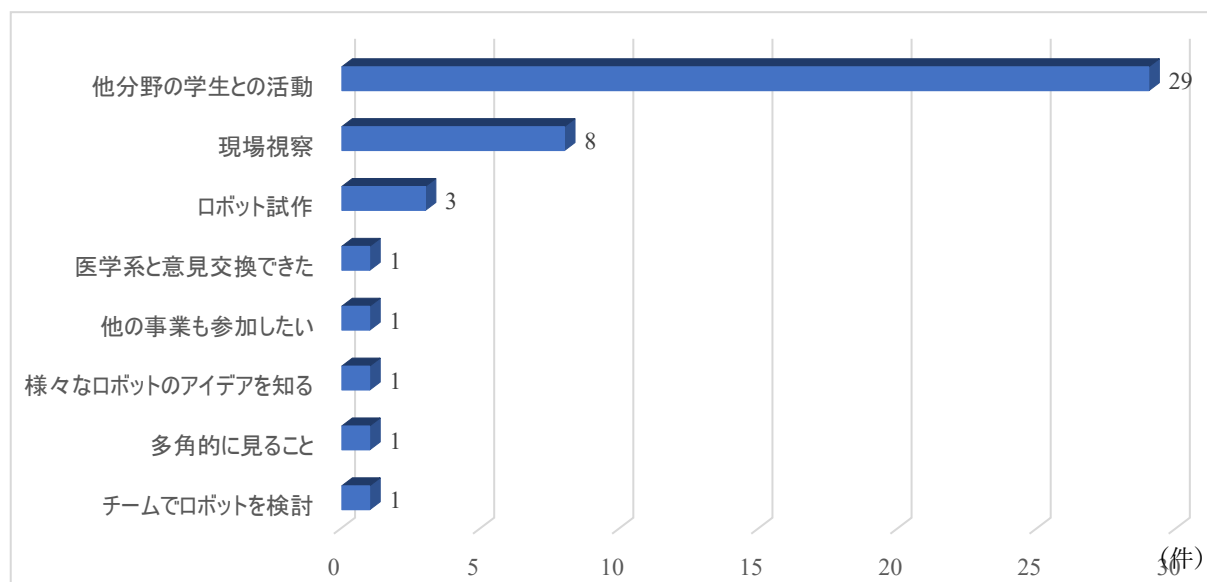
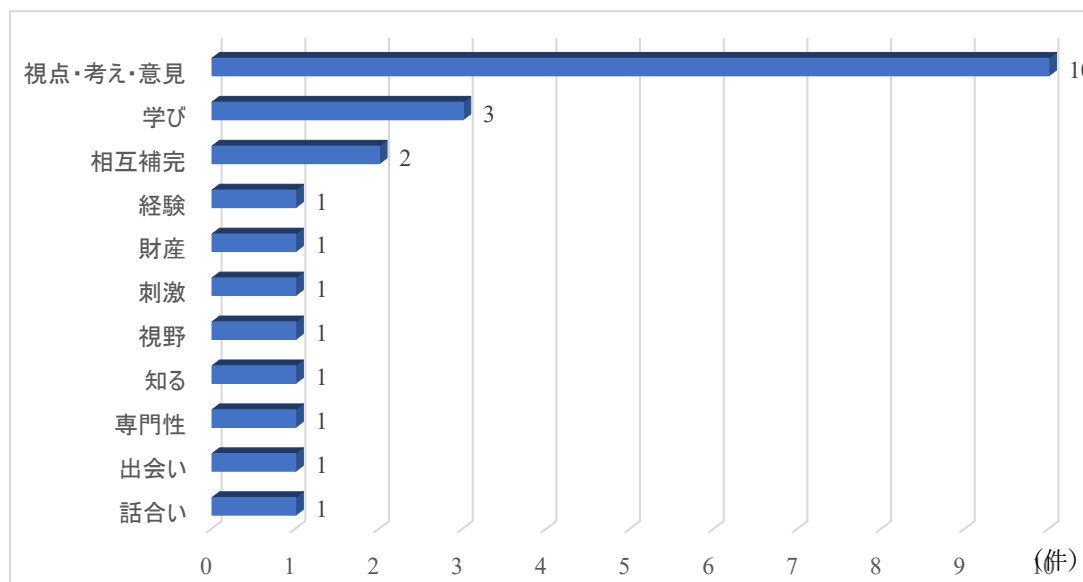


図 v-6-4 事業に参加して良かったこと (N=45)

(3) 他分野の学生と活動してよかった理由

事業に参加してよかった点のうち、他分野の学生と活動したことをあげる理由として、視点・考え・意見に関することが10件と最も多かった。また、学びが3件、相互補完2件を理由としてあげる学生も一定程度認められた。これをみると、専門性の異なる異分野の視点や考え方、それに基づく意見に触れて刺激を受ける過程で学びや気づきにつながったものと考えられた（図v-6-5）。



図v-6-5 他分野の学生と活動して良かった理由（N=23）

（4）参加することになった動機は達成されたか

事業に参加することになった動機が達成されたかの問いについては、達成されたと答えた学生が最も多く、82%（27件）であった。これをみると、事業参加当初の目標は高いレベルで達成されていることがわかる（図v-6-6）。

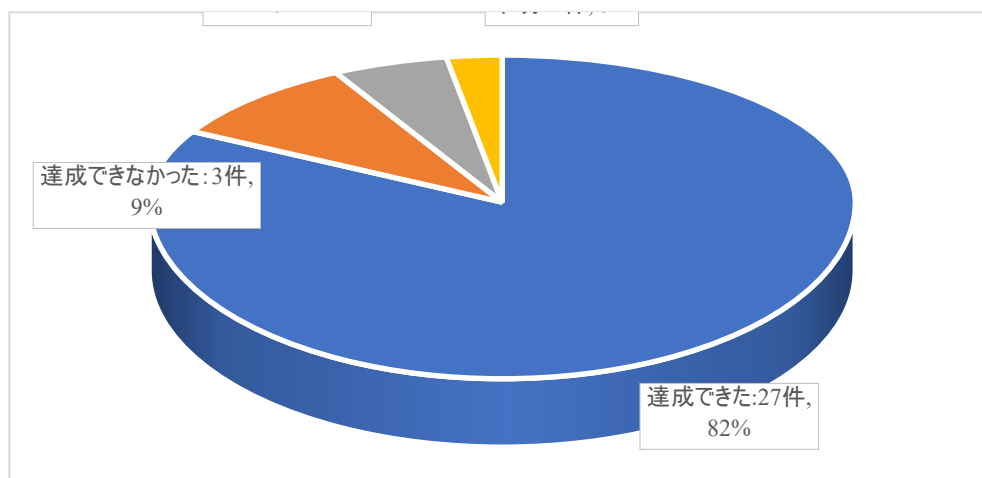


図-v-6-6 参加することになった動機は達成されたか（N=33）

（５）介護のイメージは変化したか

介護のイメージは変化したかの問いについては、変化があったと答えた学生は63%と最も多く、大いに变化したと答えた9%と合わせると72%であった。一方、変化がないと答えた学生は13%であった。これをみると、多くの学生は施設見学や介護の課題を考えることを通じて現状の理解を深めていることがわかる（図v-6-7）。

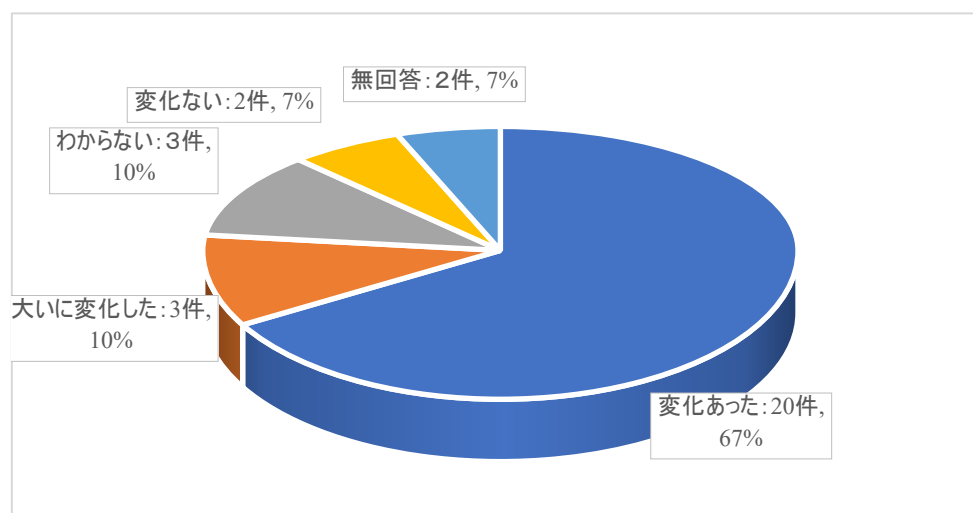


図-v-6-7 介護のイメージは変化したか (N=32)

（６）チームでの役割を果たすことができたか

チームでの役割を果たすことができたかの問いについて、果たせたと答えた学生は55%であり、大いに果たせた16%を合わせると71%の学生が役割を果たすことができたと感じている。一方、果たせなかったと答えた学生は7%であり、まったく果たせなかったと答えた学生は3%であった。これをみると、多くの学生は自分の専門性を活かすなど、なんらかのかたちでチームに貢献できたと考えている。一方で、役割が果たせなかった学生は、スケジュールが合わず参加できないなどの理由があげられていた（図v-6-8）。

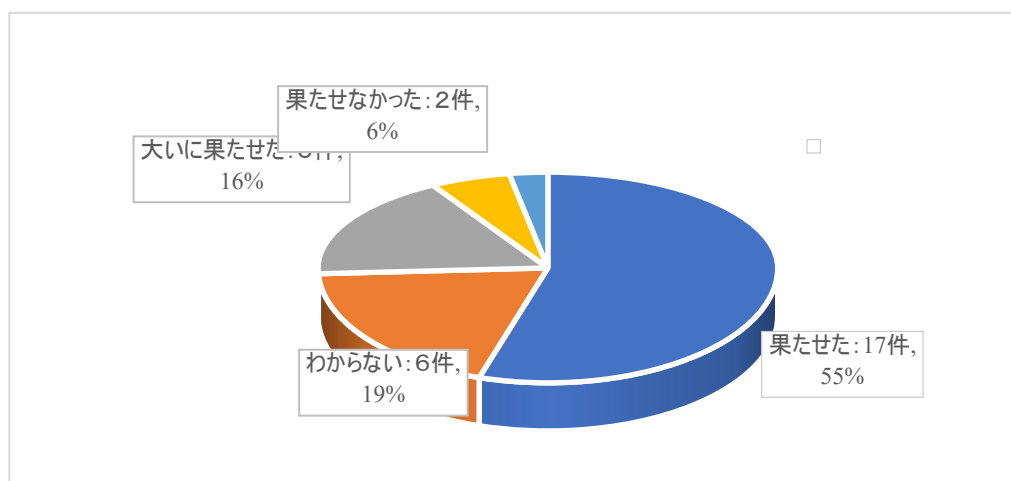
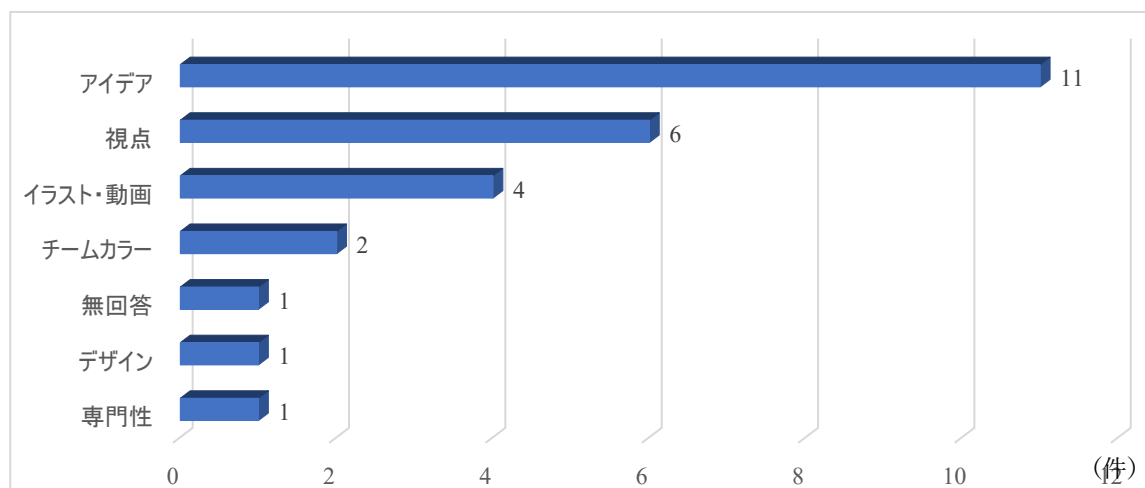


図-v-6-8 チームでの役割は果たせたか (N=31)

（７）他チームの発表に関する感想

他チームの発表に関する感想では、着眼点に関するコメントが２６件寄せられており、６つのカテゴリーに分類できた。なかでも、アイデアと視点に着目する学生が多く、内容的な点に集中していた。評語に関するコメントでは、３１件のコメントが寄せられており、１５のカテゴリーに分類できた。コメントのほとんどが評価的であり、なかでも面白いが７件と最も多く、興味深い３件、よい案・議論である３件、想像・わかりやすい３件など、好意的なコメントに集中していた（図Ⅴ-6-9）。



図Ⅴ-6-9 他のチーム発表に関する感想（着眼点：N＝26）

３）アンケート調査まとめ

（１）介護に対する現在のイメージについて

介護に対する現在のイメージについては、事業開始時では人材不足に関する記述が最も多く、次いで介護負担が大きいに関する記述がほとんどを占めていた。一方、終了時の調査では介護のイメージは変化したかの問いに対して、変化があったと答えた学生は６３％と最も多く、大いに変化したと答えた９％を合わせると７２％であった。

（２）チームに対してどのような役割が果たせそうか

チームに対してどのような役割が果たせそうかの問いについては、事業開始時では工学・医療・福祉・デザイン・社会科学・人文科学系などの各専門領域の視点で意見・アイデアなどによる貢献に関する記述が多くみられた。一方で、チームワークに貢献することに関する記述が５件、積極的な参加姿勢をみせることに関する記述が５件あり、チームや参加姿勢に対する意識が一定程度認められた。終了時の調査では、役割が果たせたと答えた学生は５５％であり、大いに果たせた１６％を合わせると７１％の学生が役割を果たすことができたと感じていた。

（３）事業に参加してよかったこと

事業に参加してよかったことの問いについては、他分野の学生と活動したことをあげる学生が２

9件と最も多く、異分野交流による取り組みに関するポジティブな評価が高かった。また、現場の視察がよかった点としてあげる学生も一定数みられており、課題分析を行ううえで現場をみることは必要なことであると考えられた。また、事業に参加してよかった点のうち、他分野の学生と活動したことをあげる理由として、視点・考え・意見に関することが10件と最も多く、学びが3件、相互補完2件を理由としてあげる学生も一定程度みられた。

（４）参加することになった動機は達成されたか

事業に参加することになった動機は達成されたかの問いについては、達成されたと答えた学生が最も多く、82%（27件）であった。

（５）他チームの発表に関する感想

他チームの発表に関する感想の問いについては、着眼点に関するコメントで、アイデアと視点に着目する学生が多く、内容的な点に集中していた。評語に関するコメントでは、面白いが最も多く、興味深い、よい案・議論である、想像・わかりやすいなど、好意的なコメントが集中していた。